シンポジウム

シンポジウム1

10月1日(水) 9:20～11:00 A会場

座長：細谷 紀子（東京大学）、小林 純也（京都大学）

ATM, NBS1の新たな分子機能の解明と疾患との関わり

S1-1 NBS1蛋白C末側ドメインとDNA損傷応答における役割

○小松 賢志[1)]、加藤 晃弘[1)]、柳原 啓見[2)]、斎藤 裕一朗[1)]、周 慧[3)]、小林 純也[1)]

1）京都大学 放生研 ゲノム、2）広島大学 原医研 放射線ゲノム、3）京都大学 理学研究科 生物科学

S1-2 不正確な末端結合におけるXrs2/Nbs1のFHAドメインとTel1/ATMの機能

○篠原 美紀[1)]、岩崎 大地[1,2)]、寺澤 匡博[1)]

1）大阪大学 蛋白研 ゲノム染色体機能、2）大阪大学大学院 院理 生物科学

S1-3 ATMによる腫瘍化制御

○高木 正稔

東京医科歯科大学 医 発生発達病態学

S1-4 がん精巣抗原によるATMの活性制御とがんの病態における役割

○細谷 紀子

東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 放射線分子医学部門

シンポジウム2

10月1日(水) 13:00～15:30 A会場

座長：續 輝久（九州大学）、秋葉 澄伯（鹿児島大学）

低線量・低線量率放射線による発がんを考える

S2-1 原爆被爆者の疫学データから今言えること

○小笹 晃太郎、坂田 律、杉山 裕美、歌田 真依、高橋 郁乃、定金 敦子、グラント エリック

放射線影響研究所 疫学

S2-2 高バックグラウンド地域住民の疫学調査

○秋葉 澄伯

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・予防医学

S2-3 放射線被ばくと甲状腺がん

○山下 俊一

長崎大学原爆後障害医療研究所

S2-4 最新の医療被ばくの疫学研究レビューから見える低線量リスク推定の課題

○甲斐 倫明

大分看科大 環境保健

S2-5 低線量率放射線長期照射時にみられる経時的病理変化

○田中 聡、田中 イグナシャ

（公財）環境科学技術研究所 生物影響研究部

S2-6 DNA修復欠損マウスを用いた発がん研究：低用量化学物質投与研究から見えること

○續 輝久

九州大学 院医 基礎放射線医学

シンポジウム3

10月1日(木) 15：40～17：40 A会場

座長：島田 義也（放射線医学総合研究所）、鈴木 啓司（長崎大学）

放射線発がんのメカニズムを再考する
～放射線発がんにつながる発がん初期過程を考察する～

S3-1 DNA損傷に対する生存シグナル応答

○島田 義也、西村 まゆみ、有吉 健太郎、臺野 和広、今岡 達彦、山田 裕、森岡 孝満、鶴岡 千鶴、坂入 しのぶ、尚 奕、谷 修祐、細木 彩夏、柿沼 志津子
放医研・防護セ・発達期P

S3-2 放射線誘発がんのゲノム変異から発がんプロセスを考察する

○柿沼 志津子[1,2,3]、砂押 正章[1,2]、鶴岡 千鶴[1]、甘崎 佳子[1]、坂入 しのぶ[1]、尚 奕[3]、島田 義也[1,3]
1）放医研・防護セ・発達期P、2）茨城大学・理学研究科、3）放医研・福島復興P・福島復興P

S3-3 白血病誘発効果を有する放射線照射によって生じる造血細胞の初期応答

○廣内 篤久
環境科学技術研究所 生物影響

S3-4 放射線発がんにつながる初期組織反応

○鈴木 啓司[1]、山内 一己[2]、今岡 達彦[3]、山下 俊一[1]
1）長崎大 原研 放射線災害医療、2）環境研 生物影響、3）放医研 放射線防護研究セ

シンポジウム4

10月2日(木) 8：20～10：20 A会場

座長：田内 広（茨城大学）、鈴木 啓司（長崎大学）

放射線による細胞死研究の新展開
～細胞死につながる初期過程を考察する～

S4-1 相同組換え修復能の阻害による放射線感受性の変化と突然変異誘発

○田内 広[1]、穀田 哲也[1]、大川 沙織[1]、坂本 裕貴[1]、江原 俊介[1]、船生 悠美[1]、小林 健太[1]、小林 純也[2]、飯島 健太[1]、小松 賢志[2]
1）茨城大 理 生物科学、2）京都大 放生研

S4-2 異なる線量率での放射線被曝環境と細胞運命決定機構

○河合 秀彦[1]、曹 麗麗[2]、笹谷 めぐみ[2]、飯塚 大輔[2]、松井 啓隆[3]、金井 昭教[3]、稲葉 俊哉[3]、神谷 研二[2]、鈴木 文男[1]
1）広島大 原医研 放射線細胞応答、2）広島大 原医研 分子発がん制御、3）広島大 原医研 がん分子病態

S4-3 いつまで経っても修復されないDSBの生物学

○野田 朝男、平井 裕子、濱崎 幹也、中村 典、児玉 喜明
（公財）放射線影響研究所 遺伝

S4-4 放射線誘発アポトーシスとオートファジー

○坪井 康次、鈴木 健之、Gerelchuluun Ariungerel
筑波大学医学医療系・陽子線医学利用研究センター

シンポジウム5

10月3日㊎ 8：20～10：20 A会場

座長：中田 慎一郎（大阪大学）、松本 義久（東京工業大学）

DNA2重鎖切断修復の分子機構研究の最先端

S5-1 DNA二本鎖切断修復経路を決定する分子メカニズム

○柴田 淳史[1)]、尾池 貴洋[2)]、テイナー ジョン[3)]、ペトリシ エレーナ[4)]、ジェゴ ペニー[5)]、中野 隆史[2)]
1）群馬大学 先端科学研究指導者育成ユニット、2）群馬大学・院医・腫瘍放射線学、3）スクリプス研究所、4）シエナ大学、5）サセックス大学

S5-2 ユビキチン化制御によるDNA2本鎖損傷修復

○中田 慎一郎
大阪大 医 細胞応答制御

S5-3 放射線照射による相同組換え修復能の“飽和”と細胞制御機構

○斎藤 裕一朗[1)]、井原 誠[2)]、平山 亮一[3)]、加藤 晃弘[1)]、小林 純也[1)]、小松 賢志[1)]
1）京大放生研ゲノム動態部門、2）長崎大医歯薬学総合原爆後障害医療研究所、3）放射線医学総合研究所重粒子医科学センター

S5-4 Activation and regulation of ATR at double-stranded DNA breaks

○Bunsyo Shiotani[1, 2)], Hidetoshi Tahara[1)], Lee Zou[2)]
1）Inst. Biomed. Health Sci. Hiroshima Univ、
2）Massachusetts General Hospital Cancer Center, Harvard Medical Schoo

S5-5 DNA二重鎖切断修復におけるDNA-PKのリン酸化の意義：XRCC4リン酸化部位の同定と解析

○松本 義久
東工大・原子炉研

シンポジウム6

10月3日㊎ 8：20～10：20 B会場

座長：宮川 清（東京大学）、島田 義也（放射線医学総合研究所）

医療被ばくの現状と課題

S6-1 我が国における医療被ばくの実態を把握するシステムの構築に向けて

○甲斐 倫明
大分看科大 環境保健

S6-2 医療被ばくの実態と放射線影響・防護

○伴 信彦
東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部

S6-3 医療被ばくの疫学研究の観点から

○吉永 信治
放射線医学総合研究所福島復興支援本部健康影響調査プロジェクト

S6-4 医療放射線被ばくによるゲノム損傷評価法の確立

○田代 聡
広島大 原医研 細胞修復制御

S6-5 適切な医療被ばく防護の実現に向けた取り組み

○神田 玲子
放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター

シンポジウム7

10月3日㊎　10：30～12：00　A会場

座長：大野 和子（京都医療科学大学）、酒井 一夫（放射線医学総合研究所）

増え続ける医療被曝を考える

S7-1　放射線医学臨床利用の現状

○中別府 良昭
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学

S7-2　医療被ばくの線量評価に関する現状

○赤羽 恵一
独立行政法人 放射線医学総合研究所 医療被ばく研究プロジェクト 医療被ばく研究推進室

S7-3　医療放射線防護の立場から医療被曝を考える

○菊地 透
自治医科大学 RI センター

S7-4　診断放射線被曝の健康影響

○鈴木 元
国際医療福祉大学クリニック